

2026年度
千葉大学大学院
教育学研究科

Graduate School of Education, Chiba University

修士課程 学校教育学専攻

Division of School Education

専門職学位課程 高度教職実践専攻

Division of Advanced Professional Development in Education
(Professional Degree Course)

「知」と「実践」の架け橋となり、
教育界の新たな風になりませんか

修士課程

現職教員特別選抜

第1回 願書受付 2025年 7月18日(金)～23日(水)
試験日 2025年 8月24日(日)
第2回 願書受付 2025年10月16日(木)～21日(火)
試験日 2025年11月 9日(日)

一般選抜

願書受付 2025年10月16日(木)～21日(火)
試験日 2025年11月 9日(日)

専門職学位課程

現職教員・教育関係職員特別選抜

第1回 願書受付 2025年 7月18日(金)～23日(水)
試験日 2025年 8月24日(日)
第2回 願書受付 2025年10月16日(木)～21日(火)
試験日 2025年11月 9日(日)

一般選抜

願書受付 2025年10月16日(木)～21日(火)
試験日 2025年11月 9日(日)

対面・オンライン・メールによる個別相談を随時実施しています。
お気軽にお申し込みください。
申込フォーム: <https://forms.gle/XvSpGWXPs5aPsu649>



2026年度大学院入学生募集

千葉大学大学院教育学研究科 <https://www.education.chiba-u.jp/>





高度な専門性を身につけて、 これからの教育への貢献を

千葉大学大学院教育学研究科長

藤川 大祐

千葉大学大学院教育学研究科は、実践的な研究を基盤に教育に関する高度な専門性を身につけることができる大学院であり、修士課程と専門職学位課程（教職大学院）の二つの課程が設置されています。

修士課程は、学生が研究主題を決め、多様な授業科目を通して教育研究について広く学びながら、修士論文研究を進める課程です。各専門の授業科目以外に、教育実践に関する授業科目や教育研究方法に関する授業科目が設けられており、教育に関する実践的な学術研究をする力をつけることができます。修了後は、専門性の高い学校教員として活躍する人が多い一方で、千葉大学も参加している東京学芸大学連合大学院博士課程や千葉大学内の博士課程に進学する人も多く、過去の修了者の中には大学教員となっている人も大勢います。

教職大学院は、学校教育に関する課題に関する実践的な授業や実習を通して学びを深め、自らの関心に基づくテーマについて実践研究を行う課程です。教育現場の具体的な課題が各授業で扱われ、互いの経験をもとに交流をしながら学ぶことができます。

教育学研究科では、現職教員や教育行政職員、さらには退職教員や企業・NPOに所属する人も多く、いわゆるストレートマスターでも学校現場で非常勤講師を務めながら学んでいる人もいて、多様な背景をもつ学生が互いに交流しながら学んでいます。指導する教員の側も、学校現場のことをよく知る人が多い一方で、それぞれの領域で研究実績が豊富な教員が多く、学生の幅広い関心にしっかりと応えられるものと考えています。

教育をめぐる状況は大きく変化しており、大学院を修了し研究的な考え方を身につけた人の役割は重要性を増しています。高度な専門性を身につけて教育に貢献しようとしている方を、教育学研究科ではお待ちしております。

2つの課程・専攻について

修士課程

学校教育学専攻

- 授業力・指導力のある教員、教職大学院及び教育学系大学院の教員、実践的研究者(博士課程進学)など、国内外の教育分野で活躍することをめざす者を対象
- 学部卒業生、既卒者、社会人(現職教員含む)、留学生などを入学者として想定

専門職学位課程

高度教職実践専攻(教職大学院)

- 学級経営・学校経営の力量ある教員、組織内のミドルリーダーとして活躍できる教員、生徒指導・教育相談・進路指導の適切な指導ができる教員をめざす者を対象
- 現職教員、教育行政関係者、学部卒業生などを入学者として想定

取得できる教員免許

本研究科において取得できる専修免許状は次のとおりです。各免許の必要単位を修得して修了すれば、以下の免許状を取得できます。なお、当該一種免許状を有することが必要です。

ただし、専門職学位課程では、特別支援学校教諭専修免許状は取得できません。

- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状
(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語)
- 高等学校教諭専修免許状
(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、家庭、情報、工業、英語)
- 特別支援学校教諭専修免許状(修士課程のみ取得可)
- 幼稚園教諭専修免許状
- 養護教諭専修免許状

なお、大学院在籍時に貸与された日本学生支援機構奨学金について、教員になった者に対する返還免除制度が、2024年度より始まりました。詳細は右の二次元コードでご確認ください。



千葉大学グローバル人材育成

“ENGINE”に伴う 全員留学について

千葉大学では、2020年度以降入学者は、原則として、在学中に1回以上留学し当該留学に係る単位を修得することが必要となります。

ただし、大学院教育学研究科においては、海外で開催される学会等への参加・発表や海外大学の研究室訪問や海外企業の視察を実施するなど、学生自身の研究等に資する海外での活動の実施も「留学」の対象となります。この場合は単位修得を伴う必要はありません。

また、高度教職実践専攻においては、グローバル対応リーダープログラムの一部受講をもって「留学」に替えることができます。



修士課程学校教育学専攻 各系の教育研究の概要

学校教育学専攻では、教育の諸問題を科学的・実践的視点から捉え、学際的なアプローチによって問題に的確に対応できる人材の育成を目指しています。さらに、現職教員のリカレント教育の一層の充実を図ることにより、教育の現場と教育学との架橋を図ることも目指しています。専攻には、教育発達支援系と横断型授業づくり系、言語・社会系、理数・技術系、芸術・体育系の5つの系を置いています。

①教育発達支援系

教育発達支援系では、児童・生徒の学習過程、乳幼児から児童・青年に至る子どもの身体的・認知的・社会的発達の過程、発達障害児や重複障害児の教育支援、児童・生徒の健康の支援等について、幅広い知識と実践力を備え、今日的課題に対処できる人材の育成を目指しています。

主な研究領域(分野)

教育心理学、発達心理学、保育・幼児教育、特別支援教育、学校ヘルスプロモーション、養護教育

②横断型授業づくり系

横断型授業づくり系では、教科・領域の枠を超えた新しい授業づくり、ならびに教育の現代的な課題に関して実践的・理論的な研究を行います。実際に教育現場に出かけて、ひとまとまりの授業を行い、その授業実践に基づいた研究、ならびに教育の現代的な課題についての臨牀的、哲学的な研究を行います。新しい授業や教育実践を展開できる人材の育成を目指します。

主な研究領域(分野)

総合的な学習や道徳をはじめとした諸領域における新しいカリキュラムや方法の開発、非行問題に関する臨牀的な研究、教育、学校に関する哲学的な考察等

③言語・社会系

言語・社会系では、人々の言語活動や生活・行動様式を「人間と文化」という共通概念から捉え、国語、英語、社会、家庭などの教科教育、人間と文化の諸分野の研究を展開します。そして、その研究成果を教育・研究の分野に活かせる人材の育成を目指しています。

主な研究領域(分野)

国語教育、英語教育、社会科教育、家庭科教育

④理数・技術系

自然やテクノロジーに関わる理科、数学、技術の知識は広大です。幅広い知識を持って具体的・現実的な課題や重要な論点、数学的考察力、実験・実習・ものづくりの技法を理解することが必要です。理数・技術系では、その力量を備え、理科、数学、技術の学習の意義と方法を、より豊かに創成し続ける人材の育成を目指しています。

主な研究領域(分野)

理科教育、数学教育、技術教育

⑤芸術・体育系

芸術・体育系では、「表現」とともに「感性」「感覚」「伝承」「創造」「鑑賞」等を系の共通概念と位置づけ、これからの教育の中核を担う人材に必要な資質・能力として涵養することを目指しています。さらに、その学術的研究の成果を音楽、美術、体育の教科教育の場で活かす人材の育成も目指しています。

主な研究領域(分野)

音楽教育、美術教育、体育科教育

1つの専攻(学校教育学専攻)、5つの系

横断型授業づくり系を中心に領域横断型の専攻必修科目を設置し、全ての系の学生が学際的に学ぶことを可能にします。



教育発達支援系

学校心理、特別支援、
幼児教育、
学校保健

理数・技術系

自然科学、数学、
技術

横断型 授業づくり系

地域連携、
現代的課題

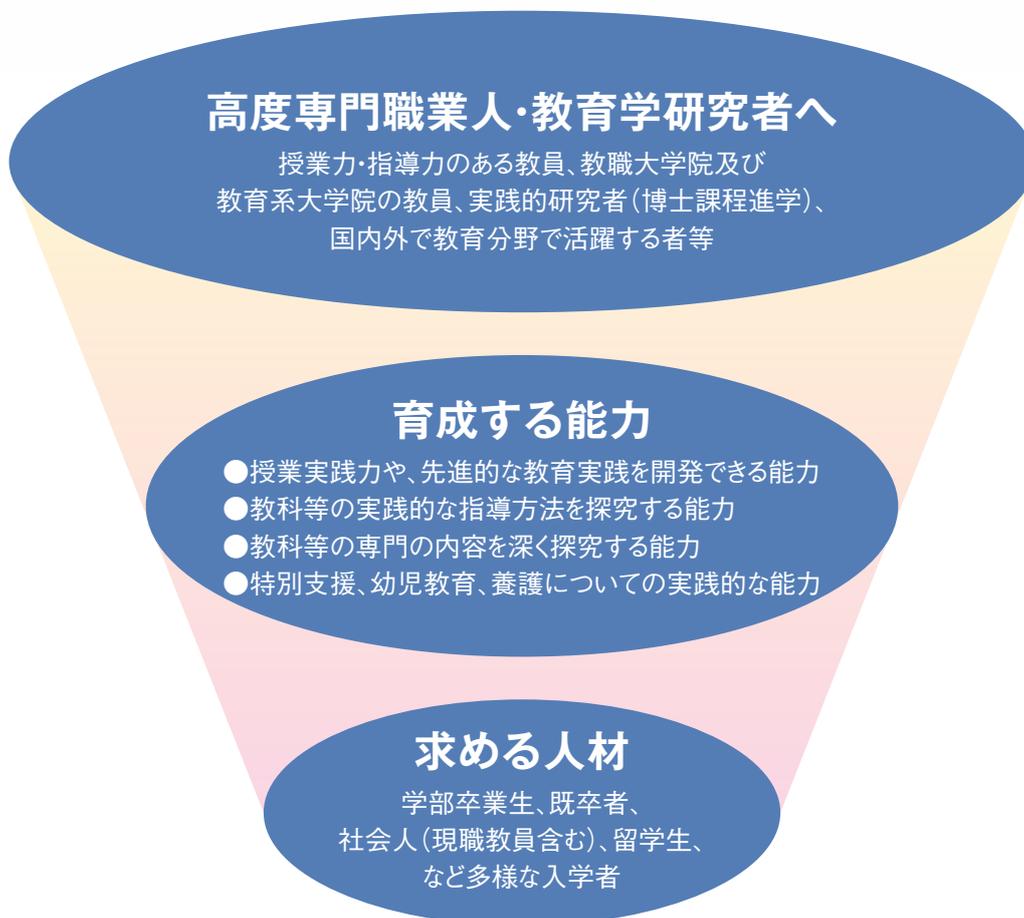
言語・社会系

言語、社会、生活、
文化

芸術・体育系

表現、感性、創造

より高き、より深きを目指す 教育学研究科 学校教育学専攻



修了要件・履修方法

30 単位	専攻必修科目(4単位)	専攻のすべての領域についての理解を深める。学校教育全体を俯瞰できる力をつける。横断型授業づくり系の教員がコーディネーターとなり、実践力・授業開発力の向上を図る。	+	修士論文
	系選択必修科目(4単位)	系における専門領域について学際的な理解を深める。		
	系選択科目(6単位)	専門領域の内容を深める。		
	教育実践・教育研究に関する科目(6単位)	様々な実習プログラムを通じて、高度専門職業人としての実践力を高める。各分野の研究プロセスや教育データサイエンスへの理解を深め、高い研究力の獲得を図る。		
	課題研究(4単位)	修士論文等の作成につながるもので、少人数の規模で研究指導をする。		
	選択科目(6単位)	グローバル化対応(ツインクルプログラムの継承)科目、大学院共通科目を含む。		

※上記に加えて、「留学」も必要となります。

※修業年限は2年ですが、現職教員向けには最長6年の長期履修学生制度も設定されています(適用条件があります)。

専門職学位課程高度教職実践専攻 (教職大学院)の概要

さまざまな教育課題に対応できるミドルリーダー育成を目指して

高度教育実践専攻では、社会や学校現場の変化に伴う課題を幅広い視点からとらえ対応できる指導力や、課題に対して教職員等の集団を機能的かつ効果的に対応させるマネジメント力を高めるために3つの分野を設け、それぞれの領域についての高い専門性を持つ人材の育成を目指しています。

各分野の概要

1

スクールマネジメント分野

学級経営・学校経営に関して優れた知見と技能を身につけ、学内外でリーダー的な役割を果たすことができる次のような教員を育成します

- “チーム学校”の一員として、組織的に諸課題に取り組むことができる人材
- 教育行政及び教育現場においてリーダーやミドルリーダーとして活躍できる人材

2

学校教育臨床分野

生徒指導・教育相談・進路指導上の諸課題を総合的に理解し、適切な指導ができる次のような教職員等を育成します

- 様々な問題行動や不適応行動に対して、その理解と対処方法を知り解決にあたることができる人材
- 生徒指導、教育相談などにおいて、教育現場で中心的に活躍できる人材

3

ICT教育開発・教育DX分野

ICTを活用した高度な指導力や、教育データの利活用力を備える次のような教職員等を育成します

- 従来の実践にICTを効果的に組み合わせた学習指導等を教育現場に提供できる人材
- ICTを効果的に活用した学習指導等についての校内研修や研究推進の指導的立場を担う人材

現職教員 受講イメージ(平日夜間1日+土曜+集中)

前期	月	火	水	木	金	土
1限						共通
2限						分野別
3限						共通
4限						
5限						
6限		共通				
7限		共通				
集中	実践研	現代的	共通			

昼間を中心とした受講イメージ(ストレートマスター等)

前期	月	火	水	木	金	土
1限						共通
2限			メンター活動		メンター活動	現代的
3限						
4限	共通	現代的				
5限	現代的	共通				共通
6限	共通	共通		実践研		
7限		共通		現代的		
集中	現代的					

6限 18:00~19:30 7限 19:40~21:10

*「勤務校実習」は、ご自分の勤務校で勤務時間内に行う実習です。

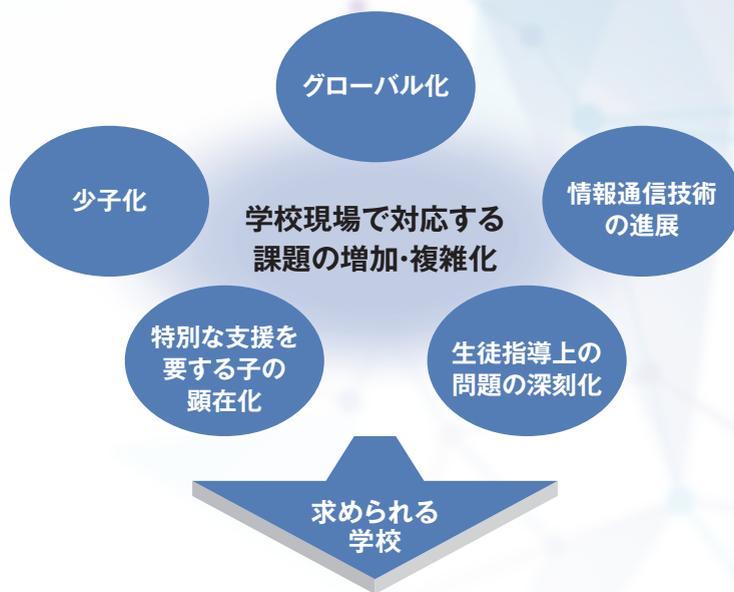
現職の教員が、2年間で修了するための、半期の履修モデル例になります。

平日の夜間(6時限:18時00分~)1日、あとは土曜日と集中講義の受講で2年間で修了が可能となります。

なお、平日に本学に来ることが難しい方のために、オンラインでの受講が可能な授業をご用意しており(注:一部のみ)、また、お仕事の都合で2年間で修了することが難しい現職の先生方のために最長6年在学可でかつ授業料は2年分で良い、「長期履修制度」もご利用いただけますので(注:審査により不可となる場合があります)、無理なく修了できるカリキュラムとなっております。



これからの社会と学校に期待される役割



マネジメント力を有する校長の下で、地域の力を活用し、チームとして組織的に諸課題に取り組む学校(チーム学校)

分野別科目

スクールマネジメント分野

学級経営・学校経営に関する優れた知見と技能を身につけ、学内外でのリーダー的な役割を果たすことができる教職員、学校の仕組みを制度や予算面から理解するとともに、地域と協働して学校経営に当たる実践的能力を身につけた教職員の養成を目指します。

学校教育臨床分野

生徒指導・進路指導上の諸課題に組織として対応する体制の中核を担う教員、様々な問題行動や不適応行動に対して、その深い理解と対処方法を知り、問題解決に当たることができる教員の養成を目指します。

ICT教育開発・教育DX分野

クラウドや情報端末をはじめとするICTと、これまでの実践を最適に組み合わせ、学校教育の可能性や課題を検討することを通して、ICT活用指導力やデータリテラシーの一層の向上を図ることを目指します。

修了要件・履修方法

45
単位

共通科目(20単位)

学校・学級経営、教科等の実践的指導法、生徒指導、教育相談などいずれの分野にも共通する領域を学ぶ。

分野別科目(4単位)

スクールマネージメント、学校教育臨床、ICT教育開発・教育DXに関する専門的な力量形成を図る。

現代的教育課題科目(7単位)

今日的教育課題について幅広い視座の獲得を目指す。

実践研究指導科目(4単位)

実践研究の課題設定、分析、振り返り、成果発表までの一連の具体的な方法を習得する。

実習科目(10単位)

実践研究と密接に関係した実習を行う。

実践
研究
報告

※上記に加えて、「留学」に係る単位取得も必要となりますが、高度教職実践専攻においては、グローバル対応リーダープログラムの一部受講をもって「留学」に替えることができます。
※修業年限は2年ですが、現職教員向けには最長6年の長期履修学生制度や1年履修コースも設定されています(適用条件があります)。

大学院Q&A

受験に向けて

Q 大学院を受験するには、どうしたらいいですか。

A 受験方法は、大きく二通りに分かれます。

- 現職教員を対象とした修士課程の「現職教員特別選抜」、さらに教育関係職員をも対象とした専門職学位課程の「現職教員・教育関係職員特別選抜」は、受験に当たり一定の経過年数が必要です。これらの試験は2回実施（例年8月と11月）しています。詳細は、募集要項をご確認ください。
- もう一つは一般選抜です。こちらは大学卒業見込みの者や社会人を広く対象にしたものです。この試験は、修士課程、専門職学位課程いずれも、11月に実施しています。詳細は、募集要項をご確認ください。受験に際しては、各課程の特徴をよく考え、自分の志望にあう課程を受験してください。

Q 受験に特別な勉強が必要とされるのでしょうか。

- A**
- 二つの課程の現職教員等を対象にした特別選抜では、口述試験の結果、ならびに提出書類（研究計画書、教育実践・研究報告書等）を総合して選抜します。現場での実践や業績のまとめを行うとともに、研究計画をしっかりと立て、受験に備えてください。
 - 一般選抜の場合、筆記試験等（必須科目、選択科目）と口述試験による学力検査の結果、成績証明書、志望理由書、研究計画書を総合して選抜します。学力検査の筆記試験のうち、必須科目では、専攻にかかわる基礎が問われます。また、選択科目は希望する専門分野の問題が選択できますので、募集要項を読んで準備しておいてください。なお、選択科目では、分野によって、専門に関する実践力が検査されることがあります。口述試験では、研究テーマに関わる問題意識や研究計画、研究を進める上での資質や能力が問われますので、志望理由書、研究計画書をしっかりと書いておき、研究テーマに関わる理解を深めておく準備が必要です。

Q 過去の問題を見ることが出来ますか。

A 教育学部ホームページにて昨年度分を閲覧することができます。

Q 短大卒の学歴なのですが、受験は出来ますか。

A 卒業後、社会人経験（特に教職経験）が一定年数ある等、本研究科が受験資格有りと認めた方は受験できます。ただし、あらかじめ申請して、受験資格を認定してもらう必要があります。

授業・研究・生活・学費・取得できる教員免許

Q 大学院の授業はどのような時間帯に開かれているのですか。勤務しながら学べますか。

A 本研究科は昼夜間開講制となっており、昼間授業は1時限の授業開始が8時50分、5時限終了が17時40分です。夜間授業は6時限の授業開始が18時00分、7時限終了は21時10分となっております。系によっては土曜日に開かれる授業や、夏・冬の長期休業中に短期集中講義形式で行われる授業もあります。

Q 2年間で修了できるか、不安なのですが。

A 本研究科には長期履修学生制度があります。職業を有している等の事情で、本研究科の標準修業年限2年間を超えて在学しなければ課程を修了することができない方を対象とした制度です。申請に基づいて認可されると、在学年限が延長されます。

Q 大学院を修了すると、専修免許状がもらえるのですか。

A 大学院を修了するだけでは専修免許は取得できないことがあります。専修免許の取得には、その基礎となる一種免許を取得済みである（あるいは教育学部の科目等履修生として大学院在学中に一種免許の取得に必要な単位を取得する）ことと、専修免許取得に必要な単位を履修することが必要です。

Q 一種免許状取得のために不足している単位を補うことはできますか。

A 本研究科に在籍しつつ千葉大学教育学部の科目等履修生になれば、教育学部の授業が履修可能です。その際、検定料、入学科および授業料は不徴収となります。ただし、研究科の履修が優先され、また、一年間で履修できる単位数の上限も定められていますので、2年間で不足している単位を補えないこともあります。各授業の担当者による事前の受講承認が必要であること、出願受付後の変更ができないこと、受付期間が短期間である（前期開講科目、集中形式などの通年開講科目は2月末の2日間）ことなど、注意点があります。また、介護等体験や一部の授業科目で、科目等履修生の受講を認めていないものがありますので、免許取得を計画する際は必ず事前にご確認ください。

海外留学（全員留学）について

Q 在学中に留学に行くことが難しい場合はどうなるのでしょうか？

A 「現職教員として働きながら在学しているため留学に行くだけの休暇が取れない場合」や「身体に不自由があって長距離の移動などが難しい場合」など海外渡航ができない場合はオンラインプログラムを受講することが可能です。

Q 自身で留学先を探すとすると、個人的に海外とつながりがなくて大変だと思うのですが、大学が推奨する留学先などはあるのでしょうか？

A 千葉大学と交流協定を結んでいるインドネシアやタイ、シンガポールなどの海外の大学があり、それらの協定先への留学プログラム（ツインクルプログラム）などを用意しています。また、独自に留学プログラムなどを用意しており、複数の選択肢があります。

対面・オンライン・メールによる個別相談を随時実施しています。
お気軽にお申し込みください。

申込フォーム: <https://forms.gle/XvSpGWXP5aPsu649>

